

宮城・坂総合病院医療支援メンバー・田辺看護師からの現地レポート NO. 2 です！

3月24日(木)午後1時46分

今午前の仕事が終わりました。それぞれ別のチームに別れて避難所訪問です。16人1チーム30分かけて歩いて避難所まで行きます。私のチームには医師4人、看護師6人、薬剤師もいて助かります。運動指導員の方もおり、簡単体操で体育館の中は笑い声と笑顔が広がりこちらが感動して胸が熱くなります(T-T)笑いは元気の元ですね。

患者は血圧の高い方が多く、避難所で働いている市の職員の方に風邪が増え、今後職員の健康チェックが必要となってくると思います。避難所生活は映像で見る以上に大変です。「お金が無いから診てもって」という声に医師から医療費無料となるとも言えずその返事に困る。インシュリンが津波で流され手持ちだけなどまだまだ課題は沢山あります。気付いた事を残り少ない期間でも提案していきます(^o^)/午後からまた歩いて頑張ります。飯村先生がまだ帰って来ません。



避難所での健康相談



簡単体操で身体をほぐす皆さん



避難所での看護師たち

3月24日午後9時15分

今日は6時までめいっぱい忙しく大変でしたわ。飯村先生は夕方よりER担当で、早々に小児三歳の重責痙攣が救急搬送されてきたそうです。Dr 飯村大活躍です。そしておばあちゃまの診察もしてますよ。

<高橋便り>

午前診療介助で、午後からは洗髪、足浴、爪切りをしました。津波以来足を洗っていないという方が多くとても喜んで頂けました。高橋さんと同じグループで行動しました。みんなじっと我慢されている姿が痛々しくて早く入浴できればいいと思いました。

<八倉巻便り>

私は一人違うチームで三ヶ所避難所を訪問しました。「傷の処置の仕方がわからない」との老夫婦がおり、足の下にオムツを敷き洗浄の方法を指導して来たり、高齢者の方は歯磨きもしてないので口腔感染も気になりました。もっともっとお伝えしたいけどこの辺で。

<田辺便り>

<災害状況編>①坂病院は塩釜市と多賀城市の2つの市を担っているので優先的に水道電気ガスはほぼ復

旧されています。しかし避難所を巡るとまだ給水車があちこちにみられ列を作っています。電気もまだ復旧せず帰れない方が多くいらっしゃいました。

②余震は夜中もあり、今日の夕方会議中にも震度5弱で騒然となり、余震を肌で感じてます。

③200人の支援者は坂病院の門前クリニック(クリニックといえど9階)の5階から9階を支援者フロアにしてあるのでそれぞれが寝袋で寝転がっています。ほのぼの隊は小さなロッカー室を見つけ出し、4人でほそぼそと暮らしております。

④安眠できる状況ではありません。寝袋でも下は床です。

⑤食べるのは任せて下さい。なんせ小さいロッカー室を確保できた為4人で持って来たものを食べ尽くすので心配ご無用。飯村先生にも食べて頂いております(^o^)/このメールを完成する間に飯村先生の二時間休憩が終了した。先生 ER 頑張ると見送り本日のミッション終了とします。

PS:避難者の方から津波の状況を自分の目を見て帰って伝えるのがあんたらの義務だ。と言われ私のチームで写真をとったので送ります。津波で流された七ヶ浜です。



津波被害の悲惨な状況です！

第二次支援者 医療生協・業務課 橋本さんの報告です！

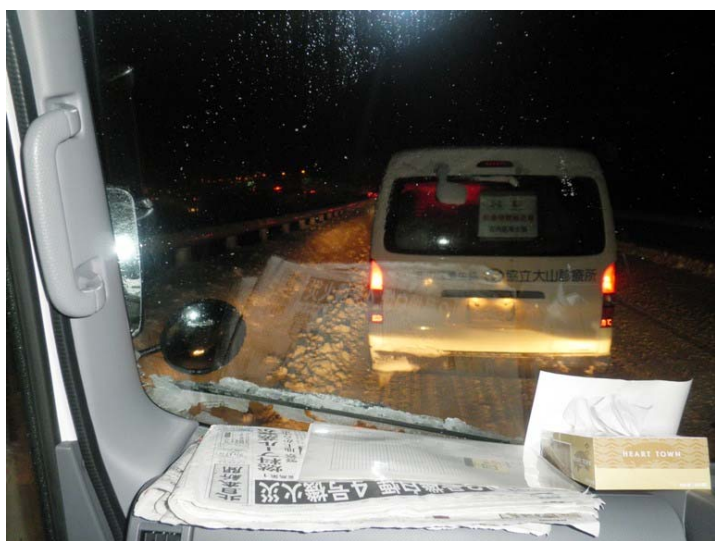
第二次支援隊として、山形庄内医療生協経由で宮城県の松島海岸診療所まで支援物資を届けました。新潟から山形へ向かい、鶴岡経由で松島に入りました。新潟では、給油制限が始まっており緊急車両でも給油が制限され村上市に入ってから、ガソリンスタンドが営業していない状態で給油するのがとても大変でした。山形に入ってから、庄内医療生協に先導してもらい松島海岸診療所に向かいました。山形は、地震や数日前からの降雪、当日の大雪の影響で道路が雪崩で通行止めになり、東北自動車道も緊急車両のみの通行となっており、普段とは違った雰囲気の中、多くの警察車両や緊急車両とすれちがいました。仙台市内は、明かりがついている建物もありましたが、全体に暗い感じでした。松島海岸診療所に近づくにつれ、明かりがなくなっていく海岸の近くなると、家の前や道にはがれきが沢山あり、道路も泥だらけで自動車がありえないところでひっくり返っていたりと、恐ろしい光景がひろがっていました。

松島海岸診療所につくと、一階は浸水の影響で使えなくなっており、二階で生活して作業をされていました。倉庫が代わりの建物に職員の方々と協力して支援物資を搬入し、とても喜ばれました。搬入中は足元がヘドロだらけで、回りにはまだがれきが散乱しており、独特のにおいがしていました。

職員の方に話を聞くと、震災の3日後から診療を始められていて、診療所も震災の影響で常に振動している感じがするなか、生活されているとのことでした。最も印象的だったのは、職員の方が笑顔でむかえてくれたことです。震災の被害を感じさせない位に前向きに生活されていて、復興作業に取り組み、残り少ないガソリンを使って訪問活動までされていることに驚愕しました。自分のことではなくほかの困っている人のために考えて復興活動をされている姿に感動を覚えました。

支援物資を届けることで、助け合うことの大切さや、継続して支援していくことのできる体制作りが重要だと感じました。また、少しでも早く物資を届ける必要性を強くかんじ、自分に何ができるのかを改めて考えさせられました。

橋本 真琴



雪の中松島海岸診療所に向けて…



がれきの上に雪



松島海岸診療所
の中です！